

## JAMと日教組の共催

# 「2018 ものづくり教育シンポジウム」開く

### 子どもたちは彫金キーホルダー作りと蒔絵を体験



彫金職人から、キーホルダー作りの説明を聞く（ものづくり体験教室）写真は一部加工



「三条ものづくり学校」は元「三条市立南小学校」の跡地をそのまま使用。シンポジウムメイン会場は体育館に椅子を並べて使用。

「2018 ものづくり教育シンポジウム」が5月12日に新潟県三条市「三条ものづくり学校」で約250人が参加して開かれた。JAMは毎年この時期に「ものづくりシンポジウム」を開催しているが、子どもたちに、ものづくりの楽しさと素晴らしさを知ってもらうために、2～4年に1回のペースでJAMと日本教職員組合の共催による「ものづくり教育シンポジウム」を開いている。今回は5回目となり、「産、官、学、労の連携による地場産業の継承・発展」をテーマに、基調講演と子どもたちのものづくり体験教室を行った。

はじめに三条市長の国定勇人（いさと）氏が自ら講師となり、「持続可能性のつかみ方」と題し、燕市と三条市のものづくりの歴史や後継者不足による課題について説いた。次に、武田修美氏（燕三条工場 KOUBA の祭典副実行委員長・(株)MGNET代表取締役）からは、毎年秋に4日間行っているイベント「燕三条工場の祭典」について、話しを聞いた。このイベントは燕三条地域のイベント参加登録したものづく

り工場を一齐に解放し、見学や金属加工などの体験ができ、刃物など直接購入もできる。昨年の参加工場は100を超え、今年は10月4日（木）～7日（日）の4日間を予定している。

ものづくり体験教室では、彫金技術で作るキーホルダーと三条仏壇の蒔絵技法でコーヒーカップに美しい絵を描いた。当初予定した人数を大幅に超えた約50人の子どもたちが参加し、ものづくりの面白さを体験した。



仏壇作りの蒔絵技術でコーヒーカップの絵柄の下地を描く